

避難の時の注意点

正確な情報収集と自主的避難を

ラジオ・テレビで最新の気象情報、災害情報、避難情報に注意しましょう。雨の降り方や浸水の状況に注意し、危険を感じたら自主的に避難しましょう。



避難の呼びかけに注意を

危険が迫ったときには、市役所や消防団から避難の呼びかけをすることがあります。呼びかけがあった場合には、速やかに避難してください。



動きやすい服装、2人以上での避難

避難するときは、動きやすい服装で、2人以上での行動を心がけましょう。



自動車での避難は控えて

自動車での避難は緊急車両の通行の妨げになりますので、特別の場合を除きやめましょう。また、堤防や道路に自動車を放置すると、水防活動の妨げになりますのでやめましょう。



高齢者などの避難に協力を

高齢者や子ども、傷病者など災害時要援護者は、早めの避難が必要です。周囲の方々は避難に協力しましょう。



もしも、逃げ遅れたら

近くの丈夫な建物の三階以上に避難して救助を待ちましょう。住宅の二階部分でも場所によっては危険な場合があります。



浸水場所での避難方法

●人が歩ける水の深さは男性で70cm、女性で50cmです。水深が腰まであるようなら高い所で救助を待ちましょう。



●はだしや長靴は禁物です。動きやすい運動靴をはきましょう。



●水面下にはどんな危険が潜んでいるかわかりません。長い棒を杖代わりにして安全を確認しながら歩きましょう。



●高齢者などは背負いましょう。子どもは浮き袋などを利用して、安全を確保して避難しましょう。



地下道などの注意を要する場所

さいたま市内には道路などの立体交差部が数多くあります。とくに、浸水時などに水深が大きくなると予想される地下道などは、避けて避難行動をとることが必要です。



《平常時》



《浸水時》

地下空間の危険性

●地上が冠水すると一気に水が流れ込んできます。

換気口や採光窓等、思わぬところから水が入ってくることがあります。また、流れ落ちる水で階段は登れません。



●地下室では外の様子がわかりません。

地下室では雨の強さや天候の急激な変化がわかりませんので、気象情報等に注意が必要です。



また、外の様子に変化があったときは地下室内の人に知らせましょう。

●浸水すると停電するおそれがあります。

停電すると電灯が消えて真っ暗になります。なお、エレベーターは使えません。



●水圧でドアは開きません。

ある程度浸水すると、外開きでも内開きでも、ドアを開けることができなくなります。

